

会報第18号
発行日 平成18年3月31日
発行・編集 V・G 概論
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/kirin

V.G 概論だより

わがまち紹介

古代のロマンを偲ぶ 古曽部のまち

古曽部地区は、優雅で情熱的な女流歌人伊勢姫とその作風に憧れて、ゆかりの地「古曽部」に移り住んだ能因法師。有名歌人ふたりが、世のしがらみから逃れるように移り住み、歌の世界に没頭したといふ。

昏神車塚古墳

昏神車塚古墳は北側の天神山の南側裾部分であり、北向きの方後田墳である。

この古墳が造られたのは六世紀中頃までと考えられており、被葬者はこの地を支配していた首長であろうと推定されている。昭和52年にイヌヤイノシン、角笛を持った狩人などの墳輪が出土し、古代の狩猟の様子を知ることが出来る古墳として注目を集めました。

乾性寺

加賀山と号して日蓮宗に属し、題目字塔や釈迦多

室一仏を本尊とする。元和五年に日進上人が創建。庭の梅は高槻城主・永井近江守直種により植えられたと伝えられ、早春には愛らしい紅花をつける古木で、樹齢三百年といわれている。乾性寺一帯は竹林に囲まれており、樹林保護地区となっている。

伊勢寺(いせじ)

今回は、乾性寺のご好意を得て、この紅梅の満開の時期に訪問させて頂いた。



乾性寺の梅

当口昏墳から小雨となり、春雨に濡れたる眞紅の紅梅もまた格別であった。

乾性寺から、さらに坂を登ると伊勢寺が見えてく

る。宇多天皇に愛された歌人伊勢姫ゆかりのお寺で

金剛山象王窟

聖観音を本尊とします。天正年間、高山右近の兵火で焼失したと伝えられますが、宗永が再興した。寺宝に伊勢使用の古硯・古鏡などがあります。伊勢姫は三十六歌仙の一人で、藤原継陰の娘です。

伊勢廟堂

本堂の西側にあり、碑は高槻城主の永井直清が建立。文章は幕府の大学頭・儒学者林羅山が書きました。直清は、その前年に能因法師を顕彰しており、能因が慕っていたといふ伊勢と寺名を結びつけた伝承をもとにして、これを顕彰したといわれている。歌碑があり、

『難波潟 みじかき葦のふしの間も 逢はばこの世を 過してよこや』と書いてあります。

日吉神社

日吉神社は、大山昨命をおやまぐひのかみ、天照大神、住吉大神を祭神とする。住宅地から突然鳥居が見え、鳥居から高台にある神社までは、春になると桜の並木道となる。

並木道となる。

本殿は、神明造檜皮葺で彩色を施されたものである。

伝能因法師墳

田んぼの中にぽつんとあるこんもりとした塚が能因塚です。能因法師は伊勢姫を慕って移り住んだとも言われ、伊勢寺から近いことを考えるとそうなのかなと思えます。



能因塚

永愷は出家して名を能因と改め、やがて、古曽部に居を構えて歌道に専念した。それは、『今昔物語集』に古曽部入道とあることから知られている。ここを拠点として、各地を旅し、優れた作品を数多く残している。

『あらし吹く 三室の山のもみじ葉は 龍田の川の 錦なりけり』は小倉百人一首にある。墳墓正面の顕彰碑は、慶安二年(1650)高槻城

主永井直清が建立した。碑文は儒学者の林羅山によるもので、能因の事跡が刻まれている。

文塚(ふみづか)

平安中期の歌人・能因法師の吟稿(ぎんこう)「和歌の原稿」を埋めたところと伝えられています。塚は畑の中にあつて、碑に「わが宿の 梢の夏になるときは 生駒の山ぞ 見えずなりける」とあります。

不老水(ふろみずい)

能因法師は日常生活に必要な水としては、花の井から得ていたようであるが、老いを知った能因法師は、不老不死を願い、特に煎茶に用いる水を汲んだのがこの井戸、不老水であったとされている。

古曽部窯跡

古曽部窯は、寛政年間の始め、五十嵐新平が、古曽部で開いた登り窯である。江戸後期から明治時代の間、古曽部焼は庶民的な陶器として親しまれたが、四代目在世中に廃された。作風は荒々しく力強い初代、民芸的な花目などが、全体的には鄙びた味わいがあり、茶器は京阪の文人達にも愛好された。S.O

4月度行事予定

流水と歴史のまち：島本町

月 日：平成18年4月6日(木) 10:00集合
阪急水無瀬駅北口集合 桜井駅跡 宝幢寺 ふれあいセンター
小鳥神社 百山稲荷 若山神社(昼休憩) 尺代 須訪神社 釈恩寺 水無瀬神社・離宮の水 阪急水無瀬駅

5月度行事予定

"歌人の夢：玉川の里"

月 日：平成18年5月18日(木)
交通案内：高槻市営バス JR高槻駅 乗り場 玉川橋団地行き 13:15発(このバスのみ)
集合場所：玉川橋団地バス停 13:35集合